

2023年5月10日（水）

「水曜サロン with 赤堀会長」第4期 第5回（通算50回）

デジタル教科書を活用した学びから考えるデータ活用

1. 内容

- ・デジタル教科書を活用した学びの研究（実践事例）

2. 所感

デジタル教科書がなくなったら寝ちゃうかも・・・ある小学校の児童の感想とのことです。最初にお詫びいたします。学校のネットワーク整備の問題もあり、デジタル教科書は、PDFや一般のデジタルブックのようなもので良いのではないかと思っていましたが、作り手の想い、工夫による学習効果には改めて感銘を受けました。例えば、英語のデジタル教科書の実践事例では、リスニングで、速度調整が可能、何度も止めて繰り返し聞いて確認できる、これらの機能により、何回も聞いたから理解できるようになった！との声。

国語のデジタル教科書を使った事例では、書き込みができる機能で、間違ってもいいから書き込んでみよう働きかけることで、話し合いなどでも積極的な取り組みになるとのこと。実際の実践事例、動画をみると改めて納得しました。

さて、デジタル教科書を用いる授業モデルの目指すところについてもお話をいただきました。正しい考えにいかにか早く辿り着くかではなく、ひとり一人が納得のいく考えを持つためにどれだけ意味のある試行活動を行うか。また、学校と家庭の成長発達過程の情報交換で通知表と合わせて、デジタル教科書に書き込んだ内容が有効である可能性もあると、教室や家庭との連携の変革の可能性を感じました。

質疑も充実していました。いかに優れたデジタル教科書でも、学習者が主導権をもって自分で使うことで効果ができる、使い方によるとのことです。また、今後の課題になりますが、一つ目は4月1日からの活用ができるか否か、教科書選定した後にアカウントを発行する、年度更新など、利用するための準備作業期間の問題ですね。もうひとつは、使用範囲（著作権）については、宿題を出してよいのかという質問が出ており、宿題は授業の延長でOKだが、学習者が創った作品（書き込みなどか）を別のクラスで使うのはNG・・・、現場の生徒や先生が困らないようにできるか否か。いずれも管理サイドでの基盤作りがポイントになると思いました。森下さん、本日は、ありがとうございました。

以上